

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)		
<p>本校の教育テーマ「国際教育」「環境教育」「表現活動」を相互に関連づけて推進し、グローバルな視野と主体的に生きる力を有する生徒を育成する</p>		<p>■3つの教育テーマ「国際教育」「環境教育」「表現活動」の取組を実施することができた。環境委員による環境保全活動の取組と教職員によるKES認証の更新をともに継続することができた。 ■公開授業の回数を増やして授業改善に努めたが、家庭学習時間数の増加にはつながっていない。生徒の学習意欲向上につながる授業改善を一層進める必要がある。 ■大学合格状況は全般的にやや厳しい結果であった。入学時から学習習慣定着の指導に力を入れ、学力向上を図る必要がある。就職希望者は徐々に増加したが、最終的に100%の内定を得ることができた。 ■広報は、ツイッターやホームページを通して迅速に展開できた。しかしながら、生徒募集が厳しい現状を踏まえ、より魅力をアピールする方策を進める必要がある。 ■部活動指導は、日々の指導に加え、部集を定期的に開いて北稜高校のリーダーとしての自覚を促す指導に努めた。ただ1年生女子の途中退部者が多く課題となっている。 ■鍵1グランプリにおいて3連覇を達成し、自転車盗難への防犯意識を高めることができたが、自転車の安全運転についてはさらに注意喚起を図る必要がある。</p>		<p>【目標】 3つの教育テーマ「国際教育」「環境教育」「表現活動」を相互に関連させた教育活動を充実させる。部活動の一層の充実を図ることで自主性と社会性、規範意識を養う。コミュニティースクールとして積極的に地域連携を行い、これまで以上に地域から愛され信頼される学校づくりを行う。</p> <p>【項目】 1 学習指導 (1)教員相互の授業参観を行うことで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の研究と実践を行う。 (2)生徒の学習意欲を高め理解を深めさせるために、ICTを活用した授業の開発に取り組む。 2 進路指導と生徒指導 (1)希望進路の実現に向け、生徒の学力向上に努めるとともにキャリア教育を推進する。 (2)挨拶や身だしなみ、言葉遣い、スマートフォン使用ルールの指導に力を入れ規範意識を醸成する。 3 部活動指導 (1)部活動加入率の向上に努め、部活動の一層の活性化を図る。 (2)部活動員に学校生活のリーダーとしての自覚をさせ、あらゆる活動に意欲的に取り組ませる。 4 魅力ある学校づくりと情報発信 (1)生徒が協働して課題解決型学習に取り組み、自ら考えたことを校外に発信する機会を設ける。 (2)学校の日常の取組が保護者や地域によりよく分かるように、ホームページやツイッターをさらに充実させる。 5 地域との連携 (1)コミュニティースクールとして地域の信頼を一層得るための努力を続ける。 (2)近隣の大学や研究機関、小・中学校と学習や文化、スポーツの交流を行い連携の強化を図る。</p>		
評価領域(分掌領域)	重点目標	具体的方策	評価基準	評価		成果と課題
				項目	総合	
教育課程 学習指導	本校の経営方針に基づいた教育課程を検証する	「学校経営計画」「学校経営の方針」を踏まえ、近年の入学教育課程を検証しながら、指導要領改正(令和4年4月)を見据えたコース編成・教育課程の研究・提案を行う。	教科主任会議、研修会を通して本校の直面する現状を周知し、教育課程やコース編成について改革の機運を学校全体に広げることができたか。	B	B	近年の入学教育課程を検証しながら、令和4年度教育課程を教務部、活性化会議で調整し、各教科にも検証・調整を依頼し令和2年度案として完成させることができた。 公開授業、研究授業は10月12日より実施の教育実習にあわせて、10月19日から2週間実施した。多数の教員が同教科はもちろん他教科の授業にも参観を行い、授業力アップに向けて研鑽できた。 長期休業前に成績不振科目をもつすべての生徒に個別教科指導を行った。各教科担当が次の学期に向けて、家庭での学習の仕方や授業の取り組み方などについて助言を与えた。また、低学力層に対して、基礎学力補充を各考査前ごとに計画・調整し行った。その成果は徐々に始まっている。 激動の年度のスタートであったが、年度当初から分掌内および他分掌と密に連携を取りながら運営をしてきた。大きな混乱なく運営できた。
	学力向上に向けての授業改善と基礎学力充実を図る	公開授業・研究授業を計画・実施し、授業を客観的に見直し、さらなるスキルアップの機会とする。また、実施期間を増やすことで学校の活性とこの企画の充実を図る。 考査前補充および成績不振者に対する長期休業前の一斉指導を実施し、学習方法の教授、基礎学力の充実を図り、進級・卒業に向けた自覚を促す。	公開授業・研究授業を実施し、多くの関係者・教員が参加した。その後、教科会議等を利用した合評会を行い授業改善につなげられたか。 学期ごとの成績不振者数を前年度に比べて減少させることができたか。	B	B	
	非常事態において学校の体制を整える	管理職および各分掌部長、教科主任と密に連携を取り合い、どのような事態が起きたとしても柔軟に計画・作戦をたてることで学校の体制を整える。	生徒、保護者、本校職員に安全かつ混乱のない計画を立て、非常事態を乗り越えることができたか。	A	A	
特色推進 広報活動	国際交流に関する行事を充実させる。	マレーシア研修旅行や海外から来校する学生との交流で、できるだけ多くの生徒が参加できるようなプログラムを工夫する。環境や地域など、多くの教職員が交流に関わるような内容を積極的に取り入れる。	できるだけ多くの生徒が取り組みに参加できたか。内容に環境、地域連携など教科横断的なものを取り入れられたか。	B	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、直接的な国際交流の機会を全く持てなかったが、アメリカ及びロシアの高校生とそれぞれオンラインによる交流を実施することができた。また、近隣の京都精華大学との授業連携やサコ学長による講演会、在日本ポルトガル大使館一等書記官によるEU講演会、英語版環境紹介パネル作成といった新しい試みを行った。それに伴い国際交流委員会の活動を広げることができ、教科や他分掌と連携した取り組みを行うことができた。 今年度は直接交流ができない状況の下、新たな国際教育の形を考える機会に恵まれた。実施した講演会では、運営や意見の集約を国際交流委員が行うなど、生徒主体の取り組みとして一つの良いモデルとなった。連携授業や講演会の事前指導や準備、計画等についての課題は今後にも生かし、教科や他分掌とともに連携を深め、より学習効果の高い時期や形などを模索していきたい。
	国際教育についての今後のあり方を検討する。	本校の国際教育の内容について、教職員や生徒から広く要望やアイデアを聞き、交流行事に反映するとともに、今後の方向を検討する。	教職員や生徒から、アンケートをはじめ様々な方法で要望やアイデアを聞き、交流行事の内容や今後の方向性の検討に生かすことができたか。	B	B	
	環境教育に生徒と教職員が一体となって取り組む	環境に対する意識を全校的に高めるため、授業やHR、行事などの場面で、教職員が自分の言葉で生徒に説明できるよう丁寧なサポートを行う。また、ゴミの分別や節電などの項目を環境委員が毎月チェックし担任が確認するなど、日常における活動を取り入れる。	KES委員会(教職員)やKESニュース等で、教職員が行う環境啓発活動をサポートできたか。環境委員会(生徒)を中心に毎月の取組状況をチェック、啓発することを通じて、生徒の意識を高めることができたか。	A	A	環境宣言を配布したり、KESニュースをClassiを通じて発信したりして全教職員に環境保護活動が伝わるように新たな工夫を行った。 定期的な環境委員会(生徒)を開き、ミミズや植物の管理などを生徒主体で進めることができた。また、環境委員が校内のゴミ分別や節電・換気などの環境チェックを行い、クラスで啓発を行うことで、生徒全体の意識を高めることができた。 全国ユース環境活動発表会において優秀賞を獲得した。 教育の特色や部活動など北稜高校の魅力を伝える動画を制作した。学校説明会の案内やポスターに加えて、特色ある取り組みや充実した部活動についてまとめた広報物を作成した。学校説明会やホームページ・Twitterを通して北稜生の活躍を発信した。
広報活動を充実させる	本校の魅力を中学生やその保護者に伝えるため、学校HPやSNSをはじめ、動画制作・配信も視野に入れた幅広い広報活動を展開する。 進路講演、出前授業、広報物の配付など、地域の中学校に訪問する機会を増やし、本校の特色ある取り組みをアピールする。	本校の教育活動を魅力的に伝えるような広報物を作成できたか。 より多くの中学生に北稜高校の魅力を伝えられたか。	B	B	進路講演、出前授業、近隣小学校との交流を積極的に行った。また、北稜高校の魅力をまとめた広報物を作成し、近隣中学校へ訪問し魅力をアピールした。今年度は感染症の影響で直接中学生にアピールする機会がなかった。今後は一人でも多くの中学生にアピールできるようにホームページでの説明会の配信やオンラインでの個別相談などの広報活動の形を模索していきたい。	
生徒指導	安心・安全な学校作りをする	教職員による年間7回の交通安全指導を実施する。またその際、部活動員で構成された自転車安全利用推進員による自転車通学指導を行う。1年生に対する早期の交通安全学習・ネットモラル指導をする。貴重品の自己管理を徹底させる。いじめを許さない体制を確立する。	教職員による年間7回の交通安全指導が実施できたか。部活動員による自転車通学指導を実施させられたか。1年生の交通安全学習が実施されたか。 1年生に対するネットモラル指導が実施できたか。貴重品の管理の徹底を実施できたか。いじめ調査を年2回実施し、調査結果を教職員で共有して問題に対処するとともにいじめを許さない環境づくりができたか。	B	B	交通ルールの遵守に向けて当初、計画していた回数よりも多く交通安全指導に取り組んでいる。1年生に交通安全学習を実施したが、1年生の交通事故件数が多いので、今後も正しい乗り方やマナーについて啓発を続けていく。 オリエンテーションや体育の授業を通して貴重品の管理を呼びかけたが、盗難が数件起きてしまった。今後ないように、管理の徹底を呼びかけるのと巡回等を行う。 年2回のいじめ調査で出てくる前に指導を行うことができた。いじめを起さないように日頃から学校全体で生徒の様子等の情報を共有する。
	主体的活動の活性化を図る	生徒会活動・各委員会活動などの生徒の主体的な活動を指導し、学校全体の活性化を図る。 部活動の新入生に加入率80%以上、全体の定着率90%以上を目指す。教育推進部と協力し、部活動の取り組みをSNSやホームページに積極的に載せる。 部集会・キャプテン会議を活用して部活動生徒への指導を充実させ、北稜高校を引っ張る存在になる意識を育てる。	生徒会・各委員会の年間の活動(行事含む)を高い意識で取り組ませることができたか。 新入生部活動加入率80%、全体の部活動定着率90%以上を達成できたか。部活動の取り組みをSNSやホームページに有効に活用することができたか。 部集会、キャプテン会議を計画的に実施できたか。部活動員が北稜高校のリーダーとして率先して動いていたか。	B	C	北稜祭の形が変更になったが、その中で生徒会は新しい企画を打ち出し、北稜祭を盛り上げた。生徒会が積極的に関わられるように早めに取り組みを始める。 休校期間の影響もあり、新入生の加入率が77.8%と目標を下回る結果となった。定着率は90%以上であったが、全体的に加入率が低下しているため、学校全体で声をかけていくとともにアビールの仕方を工夫していく。 月1回のキャプテン会議を通して継続して生徒に意識を持たせている。部集会はコロナウィルス感染症対策の関係で実施することができていないが、来年は開催し、生徒に様々な刺激を与えられようとする。
	社会性・規範意識を育成する	身だしなみ指導及び遅刻指導の徹底を図り、スマートフォンの適切な使用ルールを身につけさせることで基本的生活習慣の確立と高校生としての自覚を促す。	制服の正しい着用が定着したか。 頭髪・装飾品等の指導を徹底して行うことができたか。 朝の校門遅刻指導で遅刻生徒の状況が改善されたか。 スマートフォンの決まりを守らせることができたか。	B	B	スマートフォンのルールを完全に守らせることができていないが、昨年と比べると指導件数は減少した。頭髪指導については学年と情報を共有し、指導に取り組むことができた。また、これらの基本的生活習慣について、守ることができていない生徒もいるが、多くの生徒がルールを意識して行動している。継続して続けられるように学校全体で共通認識を持ち、指導を続ける。
進路指導	高大接続改革に対応する	各教科において学力の3要素を伸ばさせる授業を展開する。学びの過程をポートフォリオに記録させる。大学入学共通テストなどの情報を発信して対応できるような環境を整える。	教科会議や職員会議で高大接続改革に関して周知を図り、授業の実践ができたか。	B	B	Japan e-portfolioの認定取り消しに伴い、データの保存を行った。 コロナ禍の影響で出願期間や合格発表日の変更が相次いだ。速やかに第3学年団に情報を回覧した。 コロナ禍でできないことが多い。 本年度は学習合宿は実施できなかった。 1年土曜講座・3年生の平常補習の出席率はほぼ80%を越えた。2年土曜講座の出席率で80%に届かない科目があった。
	学力向上のための取り組みを行う	平常時の家庭学習の習慣を定着させる。 各学年に対して自習室の利用を促す。 補習、土曜講座、学習合宿、模試の積極的な活用を促す。 教科会議と協力して、模擬試験の事前指導・分析を行う。	進路希望調査で学習時間が増加したか。 補習・土曜講座の出席率が80%を超えているか。 学習合宿の参加者満足度が90%を超えたか。 模擬試験の分析会を定期的に行えたか。	B	B	
	キャリア教育を推進し、希望進路を実現させる	社会生活に必要な力を身につけさせ、進路や生き方について考えを深めさせる。 担任と進路指導部で協力して進路学習を行う。 進路通信等の発行を通じて、進路情報の提供を行う。	全教員が日常的にキャリア教育を意識した指導を行えたか。 各学年年間3回以上の進路HRを行い、生徒が自分の進路について考える時間を持てたか。 進路通信を年6回以上発行できたか。 国公立大学と関同立の合格者数20名以上、産近佛龍合格者数100名以上、学校紹介による就職率100%。	B	B	・進路通信に関しては、発行することができなかった。 ・学校紹介による就職は、全員1回の試験で内定することができた。
学校保健 学校安全教育	健康実態の把握と生徒への援助	健康診断、保健室入室状況など各種情報をもとに、生徒の心身の健康状態を把握し、サポートする。	各種の情報を活用し、気になる生徒の心身の健康を早期にサポートできたか。	B	B	健康課題を有する生徒について、おおむね担任・保護者と連携しサポートが図れているが、生徒の抱える問題について十分な情報共有が図れていないケースも見られた。
	効果的な特別支援教育体制を確立する	特別支援の観点から支援が必要と思われる生徒の個別の指導計画を作成するとともに具体的な対応策を教員間で共有し、支援につなげる。 コーディネーターと学年担当者によるケース会議の定例化を図り、より一層生徒の状況把握に努める。	各生徒が抱える問題について教職員で情報を共有化し、あらゆる場面において具体的な支援につなげることができたか。	C	B	4月当初新入生に対して十分な調査や聞き取りが行えず、個別の指導計画の作成が行えなかった。 2・3年生については、担任や教科担任が個々の状態を把握し適切な支援が行えている。
	校内美化・安全点検の推進	美化週間の定着を図り、清掃・美化意識の向上に取り組む。 教育環境の整備・改善に努めるとともに、生徒の保健委員会・環境委員会共同でゴミの減量の数値化に取り組む。	校内美化の推進とゴミの分別と減量に取り組むことができたか。	B	B	担任団の発案で各階ゴミ箱を1カ所に集約したことにより、ゴミの量が減った。 しかし、分別については依然不十分である。 保健委員会で、ゴミの分量調査を行うことが出来た。今後は生活委員会とも協働していきたい。
読書指導 視聴覚教育	知的好奇心を引き出すことに努めるとともに生徒の「居場所」づくりに寄与する	・生徒の興味・関心を広げるように多様な分野の資料を備え、ニュースの発行や企画展示などに取組み、利用の増加を図るとともに、生徒たちにはっと落ち着けるような「居場所」づくりの提供に努める。 ・各教科の授業の成果を展示することにより、生徒により身近な図書館をめざす。	生徒の一人あたりの貸出冊数や図書館を利用する生徒の割合を増やすことができたか。生徒がくつろげる場を提供できたか。	A	A	コロナ禍で休校中、生徒の読書や学習に利するため登校日に事前申込み制で図書貸し出しを行った。また本校ツイッター上で定期的に推薦図書を紹介を行った。
	各教科や探究学習の展開に寄与する	各教科の学習に必要な情報・資料の提供に努め、図書館と各教科の学習活動との一層の連携を図る。	授業での使用機会が増加したかどうか。時代やニーズにあわせた特別な特集コーナーの設置が増加したかどうか。	B	B	各教科だけでなく進路指導部と連携して進路関係の図書の充実にも努めた。あわせて入試対策として図書部より「小論文の書き方」「調べ学習の取り組み方」などの資料を作成し該当部署に配布した。また授業での成果物の展示を行った。
	生徒の自主活動を推進する	図書委員会活動を通じて、日々の活動や企画イベントに主体的に取り組むことができるように心がける。	委員会活動を通じて、様々な班活動やイベントの企画・運営に携わることによって、その活動内容を充実させることができたか。	B	B	文化祭での委員会としての取組は中止としたが、秋の図書館フェスティバルは密をさけながら工夫して実施することができた。
教育環境 整備	安心・安全な教育環境の更なる充実	施設・設備の整備を推進し、教育環境の充実を図る。	教育環境の整備・充実が図れたか。	B	B	GIGAスクール wifi及びプロジェクター設置 教室遮光カーテン 一部トイレの洋式化 エアコン未設置教室(生物、美術、工芸)設置 教室黒板改修12教室
学校運営協議会による評価	・生徒募集について改善されつつあることは一定評価できる。改善された要因を分析し、学習指導・生徒指導・進路指導・広報活動などそれぞれの領域においての取組を更に充実させてほしい。 ・公立高校選びは行きたい学校というよりも行ける学校探しというイメージが中学生の間で存在する。部活動や学校行事など学校生活が楽しそうであるということをもっとアピールし、行きたい学校として選ばれるようにしてほしい。 ・コロナだからできないで終わらず、ピンチをチャンスと捉え、これまでの常識にとらわれず、生徒のためにできることを思い切って行ってほしい。					
次年度に向けた改善の方向性	・今年度前倒しで整備されたGIGAスクール、スマートスクール推進事業によるICT機器を有効に活用し、教育内容の充実を図る。 ・コミュニティースクールとして地域との連携を更に深め、在校生の学校生活の充実を図るとともに、外部への情報発信を工夫し、中学生から選ばれる学校を目指す。 ・校内業務のスクラップ&ビルドを効果的にを行い、生徒に対する指導効率を上げる。					